



戦争は環境を脅かします

石油や天然ガスなど地球に有害な資源を支配したいという欲望が、戦争の主たる動機となる場合があります。

石油は湾岸戦争の時のように流出したり燃焼したりすることもあります。主にはあらゆる種類の機械に使われることで地球の大気汚染の原因になり、私たちを危険に晒します。石油を消費することと戦争の栄光や勇敢さを結びつける人もいるため、地球を大惨事に陥れるリスクのない再生可能エネルギーを戦争で使うことは、臆病で愛国心の足りない行為だと見なされます。

しかし、戦争と石油の相互作用はこれを超えています。戦争とは、石油のためであろうとなかろうと、それ自体が大量に石油を消費します。実際、世界最大の石油消費者のひとつが米軍です。

米軍は毎日3900万リットルの石油を燃焼しています。もし米国防省が国だとすると、その石油消費量は196カ国中で38位を占めます。

私たちが知っている地球環境は、核戦争に耐えられません。また、現在行われている一般的な戦争を意味する「通常戦争」にも耐えられないかもしれません。戦争や、戦争準備のために行われた研究・試験・生産によって、すでに甚大な被害が出ています。

近年の戦争は、広大な地域を居住不能とし、数千万の難民を生み出しました。ハーバード大学医学部のジェニファー・リーニングは、「世界中の罹患と死亡の原因として捉えた時、戦争は感染症に匹敵する」と言っています。

おそらく、戦争が残す最も致命的な武器は、地雷とクラスター爆弾です。数千万ものクラスター爆弾と地雷が、平和宣言が発表されたことも知らずに地面に残留していると推定されています。その犠牲者のほとんどは民間人で、多くは子供が占めます。

ソ連軍および米軍によるアフガニスタンの占領は、何千もの村と水源を破壊しました。タリバンはパキスタンと違法木材を取引しており、深刻な森林破壊を引き起こしています。さらに、米軍の爆弾投下と薪を必要とする難民によって、被害が拡大しました。アフガニスタンの森林はほとんど消滅してしまいました。かつてアフガニスタンを通過していた渡り鳥のほとんども、寄り付かなくなってしまいました。アフガニスタンの空気と水は、爆発物とロケット推進薬で汚染されました。